「2002 IFPRI AGM in Sendai」, やはり大変でした

齋藤 文良

Fumio Saito

1. 会議概要

標記会議は、仙台国際ホテル（市内）と岩松旅館（作並温泉）をそれぞれ発表会場、バンケット会場にして、平成14年7月14日（日）～18日（木）に開催された。IFPRI (<http://www.ifpri.net>) については既に本誌でも紹介があるので省くが、年会（AGM = Annual General Meeting）は年1回、日本での開催は5年に1度である。全体のスケジュールを表にして掲げる。2日目に会場で、電子プロジェクター不調の事態が1件あった以外は、すべて順調に推移し、粉体工学の広い分野にわたり熱い討論が繰り広げられた。なお、参加者なども紙数の関係で省略する。

2. 準備

会議場（ホテル）については、昨年（2001年）当初、フランスへ出かける前に既に仮予約しておいた。また、ツアーについては、いくつかのコース構想は持っていたが、最終的には本年6月頃に決めた。恒例になっている会長（Reg Davies氏）の事前見学は、フランス滞在中に日程を決め、帰国後すぐ（本年1月）の1週間とした。会長夫妻が仙台空港に降立った時は真冬、大変寒い日であったが、翌日から疲れも見せずホテル側との打ち合わせ、ツアーの下見などを行った。また、バンケット会場の岩松旅館に案内、1泊して温泉気分を味わうと同時に、ホテル内の案内、食事、浴衣、風呂などについての的を得た指摘は大変参考になった。今回、温泉をバンケット会場に選んだ主な理由は2つ；1つは“日本の文化、仙台らしさの紹介”，2つは“とにかく、緊張感を解きほぐし、ゆっくり、くつろいで、楽しんでいただく”ことであ

図1 発表会場—仙台国際ホテル

た。私自身のことで恐縮であるが、外国へ出かける駆動力は、いわば“わくわくする異文化との遭遇”であり、今回も気持ちよくおもてなしをすることが大切と割り切ることにした。会長夫妻によるホテルならびにツアーの下見は、おおむね好印象をもっていたが、最初の関門をクリアした。6月初旬には、研究室スタッフと共にツアー・リハーサルを実施、また、ホテルとの打ち合わせなどを数度行なった。その他、今回からメールでの参加登録受け付けを始めるなど新しい試みがなされ、参加費は本部（米国）が管轄、ホテルへの予約は当方が取りまとめることなど、参加者との3方向通信で多少混乱はあったが、大きな問題にはならなかった。Proceedings 作製の方は、正直言って最後まで気が抜けなかった。

3. バンケットとツアー（家族のための小旅行）

バンケットは3日目（火曜日）夕方からで、日本とアジア諸国からの招待者計17名を交えて116名全員と研究室スタッフ・学生がバスに分乗、ホテルから岩松旅館へ。到着後、一風呂浴びて、スタッフ・学生以外全員浴衣姿で大広間へ。前座は、立飲みスタイルでの「利き酒会」、もうこの段階で既に興に入った方もおられた。引き続いて全員畳に座って、各自にお膳が運ばれ、鍋料理に火がつけられ、乾杯の音頭で開演。

2002年9月9日受付
東北大学多元物質科学研究所
(〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1) TEL 022-217-5135

2002 IFPRI ANNUAL GENERAL MEETING in SENDAI PROGRAM at a Glance

		Heisei Ballroom 1 (2F)	Heisei Ballroom 2 (2F)	Heisei Ballroom 3 (2F)	Hirose Room (4F)	Keyaki Room (3F)	Sakura Room (3F)	Sakunami- Onsen	Spouse Program	Stay	Remarks
Sun., 14, July	AM	Registration (8:00AM-6:00PM)			TC Meeting (9:30-)	EC Meeting (8:30-)					
	PM	UG Meeting (1:00-) Welcoming Remarks (2:00-)		BREAK, Coffee etc. (2:40-3:00)		NC Meeting (1:00-)			Afternoon tea & cake (3:00-) Big Barrel (B1)		
	Eve.	Seminars, Reviews and Forward Look			Welcoming Party (7:00-)					Sendai Kokusai Hotel	
Mon., 15, July	AM	Talks (8:00-) (Measurement, Characterization, Size Reduction)	Poster Session (9:30-11:00)	Breakfast (7:30-) BREAK, Coffee etc. (9:15-9:30)					Matsushima Tour (8:20-)		
	PM	Talks (2:00-) (Particle Formation)	Poster Session (3:00-4:30)	LUNCH (12:30-1:30) BREAK, Coffee etc. (2:45-3:00)					LUNCH (Umine)		
	Eve.									Social Hotel	
Tue., 16, July	AM	Talks (8:00-) (Wet Systems)	Poster Session (9:30-11:00)	Breakfast (7:30-) BREAK, Coffee etc. (9:05-9:30)					City Tour of Sendai (8:20-)		Check out Hotel (-12:00)
	PM	Talks (1:30-) (Dry Systems)	Poster Session (2:30-4:00)	LUNCH (12:30-1:30) BREAK, Coffee etc. (2:15-2:30)					LANCH (Sannomaru)		
	Eve.							Banquet (8:00-)		Iwamatsu Ryokan (Sakunami-Onsen)	
Wed., 17, July	AM			LUNCH (12:30-1:30)				Breakfast (7:00-8:30)	Akiu Tour (8:50-)		IMRAM Visit (9:30-12:00)
	PM		General Poster Session (1:30-4:00)		Tea Ceremony (3:00-)	EC Meeting (4:00-5:00)	TC Meeting (4:00-5:00)		LUNCH (Kunisada)		Check in Hotel
	Eve.				Farewell Party (7:00-)					Sendai Kokusai Hotel	
Thu., 18, July	AM	Strategic Planning Sessions (8:00-11:30)		Breakfast (7:30-) BREAK, Coffee etc. (10:00-10:15)		EC Meeting (11:30-12:30)	TC Meeting (11:30-12:30)		City Shopping (9:40-)		
	PM	TAC Meeting (1:30-2:30) BD Meeting (2:45-)		LUNCH (12:30-1:30) BREAK, Coffee etc. (2:30-2:45)					LUNCH (Shiogamako)

図2 会場となった岩松旅館

図4 工芸の里にてこけし人形の鑑賞

「利き酒会」正解者への表彰、ビンゴ・ゲームなどで次第に盛り上がる。そして、研究室学生がリーダーを務める学生グループによる“よさこい祭り”で宴はたけなわ。その余韻が覚めやらない中、会長他のスピーチで終宴。予定した2時間があっという間に過ぎたが、終了後も多くの方が岩風呂を楽しんでおられたし、ご夫婦(16組)、ご家族(3組、計11人)以外は相部屋であったにもかかわらず皆それなりに温泉気分を楽しんでおられた。

ツアーはご婦人方とお子さんを対象としたもので、月曜日から4日間、秘書の加藤さんの案内で実施された。初日は松島方面。生憎、台風の影響で小雨模様の中、約20余名、バスにてホテル出発、塩釜港から遊覧船に乗り、カモメの歓迎を受けての島巡り。松島港にて下船後、五大堂、瑞願寺などを訪問。昼食は奥松島の景観を楽しみながら新鮮な磯料理に舌づつみ。火曜日も小雨模様、人気の観光バス“るーぷる”にて市内の史跡探訪。瑞宝殿では急坂にギブアップした2名が、途中のお寺での茶席に招かれるなどハプニングもあったが、皆無事にホテル帰還。一休みして、バスにてバンケット会場へ移動、温泉を楽しむ。水曜日は、作並温泉から直接バスにて秋保方面へ。この日は好天で、工芸の里、大滝、万華鏡博物館などを見物、午後3時過ぎホテル帰還、これに合わせて、ホテル4階で

は“東北大学学友会茶道部”による「茶席」が催され、これを楽しむ。夕方からはFarewell Partyへ。木曜日は市内ショッピング・デー。この日は最終日で、帰国される方も多く、参加者は前日までより少なく、数名。しかし、お天気で若干夏の暑さを感じられたが、元気良く徒歩にて一番町へ。なお、連日、その日のツアーやパーティでの電子写真が、液晶プロジェクタによりホテルの会場フロアに設置した大画面に映し出され、それは会議参加組みの緊張を解きほぐす清涼剤に似た効果を発揮したことと、雨の中、ツアーへ送り出した留守組み(夫(父)君)への“絵のお土産”になったようであった。

4. 感想と次回予告

実は、先の大阪大会(1997年)終了後、故神保元二先生(名大名誉教授)と山田良幸氏(日清製粉(株))が来仙され、神保先生より“次は仙台で”という内容のお話があり、ご下命があれば“遺言”と思い、開催をお引き受けすることある程度覚悟はしていた。時期が迫るに従い重圧となっていたのは事実で、やり終えた感想は、やはり大変であった。ただ、台風到来で2日目まで雨模様にもかかわらず、合計19組のご夫妻・家族を含めて多くの参加者から異口同音に“記憶に残る大会であった”との賛辞に、救われた。常に温和で、楽しむ極意をわきまえられた参加者の温かいお心遣いに感謝したい。それにつけても、素晴らしい研究室スタッフ、学生諸君を持ったことを誇りに思っている。彼らの協力なくしてこの大会の成功はなかったからである。また、仙台国際ホテル、岩松旅館の方々にも大変お世話になった。なお、2003年のIFPRI AGMは、7月6～10日、ドイツ、Bremenにて開催される予定である。

図3 ランチ風景－松島での磯料理